

委員会事業報告

委員会名	総務渉外委員会	委員長	宮脇 大
事業名	(公社)鳥取青年会議所新年祝賀会式典		
実施日時	2018年1月6日(土) 18:00~18:40		
会場	ホテルニューオータニ鳥取 鳳凰の間		
参加人員	内部	80人	外部 103人 計 183人
動員計画検証	<p>現役メンバーの参加率が78パーセントとなりました。半年以上活動をされていない会員を除くと85パーセントとなっております。近年卒業生が毎年多く出るので若い卒業生は参加していただきやすい傾向なのでOB人数は増加すると思われそうですが、来賓にお呼びする方を精査すべきだと思います。鳥取青年会議所との関わり方からすると呼ぶべき方に声がかかっていなかったり、一度事業に協力された方へ毎年連絡し続けていたりしていますので、前年度理事役員・本年度理事役員と相談し決め次年度へ引き継ぐべきと思います。</p>		
事業目的検証	対外的	『2018年度のJC活動に理解をしていただくと共に「おもてなし」の心をもって来賓、OBと接し笑顔になっていただく』という中で2018年度の最大の事業の地区コンファレンスをしっかりアピールできたと思います。当時の担当OBにも登壇してもらい想いを話していただく等、しっかりと来賓の方にも理解をしていただくことができました。産官学民と協同したまちづくりのスタートを担えたのではないかと思います。	
	対内的	理事長の創始の心、想いの考えを現役会員が理解し立ち返ることで何故自分たちがJC活動をしているのかという原点に立ち返ることができました。意思統一と意識の高揚を図ることができました。	
事業内容検証	運営上	<p>理事役員リハーサルに時間がかかるので時間に余裕をもって進める。今年は全体ミーティング後に再度行った。</p> <p>急遽出欠変更が多くあった。欠席から出席の場合ネームプレートが準備できないということもあった。祈願が15分では終わらなかったなので祈願の時間を早める検討が必要。設営がロータリーの設営方法でJC方法とは違っていた。</p>	
	予算上	なし	
	その他	<p>OBの方の顔がわからない現役メンバーが多く、一般の方も多く出入りされるので工夫が必要だと思います。</p> <p>人数はそろっていたのでドアマン、エレベーターボタン役がいてもよかった。</p> <p>来賓の部屋のお茶汲み係が2部屋に対して1人と足りていなかった。</p>	
次年度への引継ぎ	<p>対外目的を「来賓やOBの皆様に、2018年度の活動方針にご理解をいただき連携強化に繋げる」ということであるので、来賓の精査は委員会の判断でやってはならないと思いました。当年度の四役で精査していただきしっかり連携強化をとりたい団体と呼ぶべきだと思います。また、会場の都合で第一週の土曜日を設定していることにより知事や市長と一番連携を図りたい方が参加することが難しくなっています。</p> <p>何を発信するかも非常に大事ですが誰が、どの団体に聞いていただきたいかを精査すべきだと思います。</p>		

委員会名	中国地区コンファレンス実行委員会	委員長	山本 祐之
事業名	中国地区コンファレンス2018 in鳥取 (たからいち)		
実施日時	2018年9月8日(土)10:00~16:00		
会場	鳥取市役所本庁舎駐車場(鳥取市尚徳町116番地)		
参加人員	内部	108人	外部 2500人以上 計 2608人以上
動員計画検証	<p>・一般市民中国地区内各LOM・中国地区内5ブロック協議会へHP・FB・TwitterなどSNS発信 HPは公益社団法人鳥取青年会議所の特設HPに依存しましたが、事業への関心を醸成しサイトへのアクセスも多く、当日の来場へ繋がった一助だと考えます。</p> <p>FBでは、中国地区をひとつに繋げるため、PRキャラバン活動時に撮影させて頂いた各地会員会議所専務理事の写真でカウントダウンを行いました。</p> <p>・中国地区内各54LOMへポスター・チラシ配布 ・中国地区内各54LOM・中国地区内5ブロック協議会へのPRキャラバン活動</p> <p>前年度より引き続きPRキャラバンを行ったことで、本事業のPRや交流をすることが1000名を超える登録と参加に繋がったと実感しています。</p> <p>・鳥取県東部地域への事業協力・協賛・後援依頼 事業協力をいただいた部署の方も事業に参加いただけました。</p> <p>・鳥取県東部地域へのポスター・チラシ配布</p> <p>アンケート集計より一般参加者で多かったのがチラシでした。本年は公益社団法人鳥取青年会議所の事業と合わせて事業を開催したため、広報は一般市民向けと青年会議所会員向けに分け広報活動を行ったため、それぞれの趣旨を理解していただくことができました。</p> <p>現役メンバーの参加率が78パーセントとなりました。半年以上活動をされていない会員を除くと85パーセントとなっております。近年卒業生が毎年多く出るので若い卒業生は参加していただきやすい傾向なのでOB人数は増加すると思われませんが、来賓にお呼びする方を精査するべきだと思います。鳥取青年会議所との関わり方からすると呼ぶべき方に声がかかっていなかったり、一度事業に協力された方へ毎年連絡し続けていたりしていますので、前年度理事役員・本年度理事役員と相談し決め次年度へ引き継ぐべきと思います。</p>		
事業目的検証	対外的	<p>・開催日前日夕方より悪天候のため、一般参加者の参加が少数との懸念もありましたが、多くの方にご来場いただき、中国地区各地のPRができました。</p> <p>・来場者、ステージ出演者、出展者、関わっていただいた多くの方から喜びの声を頂き、楽しんで頂くことができました。</p> <p>・アンケート集計より、来場者の約9割は鳥取市民でしたが、アンケートでは約9割の方に中国地方の魅力を感じたと回答をいただきました。</p>	
	対内的	<p>・事前準備よりたからいち会場内・外に対して安全対策を入念に行い、当日は事故も無く多くの市民と各地会員会議所会員をお迎えする事ができました。</p>	
事業内容検証	運営上	<p>・会場が今までイベントを行ったことがない鳥取市役所本庁舎駐車場ということもあり、土曜日の行政サービス利用者と来場者との区別について事前に鳥取市担当課の方と対策を協議し実行しましたが、当日の区別作業は困難でした。また車で来場された方に臨時駐車場への誘導を限られたスペース・人員で行っていたため、隣接する国道に列ができることがありました。</p> <p>・悪天候に対応するため、当日朝に公益社団法人鳥取青年会議所のテントを2張追加して対応しました。</p> <p>※あとひとつLOMのテントがありますが、資材が揃っておらず張る事ができませんでしたので、事前の確認と対応が必要でした。</p> <p>・16:30終了に対し、15:00頃には店舗の飲食ブースが完売し、以降のご来場者様には販売ブースのみで食を体験して頂くことができず、ステージ演出と体験ブース・物品販売のみで進行することになりました。</p> <p>・事業審議後に行政の同日イベントが開催されることが発覚し、240台分の駐車場の確保ができなくなりました。来場者の安全を尊守する必要があると判断し、ただちに臨時駐車場を設けシャトルバス運行と警備を追加する事になりました。計画段階で十分な対策をとる必要がありました。</p>	
	予算上	<p>悪天候による安全対策として早期設営が必要となったため、会場設営の運搬費と作業人員を増やし、対応する必要がありました。</p>	
	その他		

次年度への引継ぎ	<p>【運動面】</p> <p>①運動の発信について昨年度より引き続きPRキャラバンを行い、各地に赴いて本事業のPRや交流をすることが多くの参加に繋がりました『たからいち』を体験していただくことができました。参加動員の工夫は重要となりますのでご検討をお願いします。</p> <p>②対外配布資料では一般市民には事業趣旨が伝わりにくい為、まずは来場へ繋げることができる広報作成物やSNS発信についての工夫が必要です。</p> <p>【運営面】</p> <p>①イベント開催の前例が無い会場でしたが、鳥取市に協力をいただき本会場にて開催する事ができました。式典会場・フォーラム会場にほど近く、アクセスのよい会場を選定したため、各地会員会議所会員の速やかな誘導と来場に繋がりました。また鳥取市民にとって親しみがある中心市街地を会場とすることで、通行車両や近隣住民への露出も有効だったと考えます。会場への移動距離は近く、アクセスが良いほど有効であると考えますので、以降の中国地区コンファレンスでもご検討いただければと思います。</p> <p>②例年9月は台風や悪天候などが危惧されます。雨天時の設営や事前準備を行い天候に左右されない安全性が保たれた計画を検討してください。</p> <p>【予算面】</p> <p>①今年は公益社団法人鳥取青年会議所の事業と合わせて開催したため、会場設営や出展・ステージ出演について予算を按分することができ、互いの目的に対して相乗効果を得ることができました。</p> <p>②中国地区5県各地から出展していただくために、出展料・交通費を支払い、出展に対しての負担やリスクを減らすなどの工夫が必要となりました。年当初より事前に各ブロック並びに各地会員会議所との協力・連携を図った出展計画をするなど検討が必要と感じます。</p>
----------	---

委員会名	拡大広報推進委員会			委員長	大塩 晋也		
事業名	未来へつなぐ拡大活動						
実施日時	2018年1月10日～2018年12月31日						
会場	因幡地域						
参加人員	内部	人	外部	人	計	人	
動員計画検証	<p>[拡大活動]</p> <p>参加員数結果:65人(拡大への参加率53%)</p> <p>拡大優秀賞のポイント集計を元に1ポイント以上のポイント獲得者の人数で拡大活動への協力者数を計算しております。</p> <p>2017年度が会員数122人中、拡大への協力者が58人(拡大への参加率47%)ということから拡大への協力者の割合は、ほとんど変化はなく、まだまだ拡大意識の向上による拡大協力者の増加が求められます。</p> <p>[異業種交流会トリ・コラボ]</p> <p>参加員数結果:</p> <p>第1回[内部74人・外部49人・計123人]</p> <p>第2回[内部56人・外部47人・計113人]</p> <p>第3回[内部58人・外部54人・計112人]</p> <p>第4回[内部59人・外部43人・計102人]</p> <p>全4回ともに100名以上の動員を達成することができたが、第4回は外部動員がうまくいかず、当日ぎりぎりまで声かけをし、何とかクリアするという結果になりました。毎回、内部外部参加者共に当日のドタキャンが数名出てしまいますので、余裕を持った動員計画を立てる必要があります。第1回から第4回までに、参加者の数が減っていく傾向にあります。参加者を飽きさせない工夫が必要だと考えます。また、外部参加者のほとんどはメンバーの協力による声かけに頼っています。チラシ以外の広報手段による参加推進計画も必要になってくると思います。</p>						
事業目的検証	対外的	<p>①2018年度後期に9名が入会し、2019年度前期に6名、後期に1名が入会を予定している(11/30時点)。</p> <p>・4回の異業種交流会は多くの新入会員の獲得につながった。</p> <p>②新入会員の多くが青年会議所活動への意識が高く、活動を前向きに頑張っている。今後、JC活動を通して成長し、組織の発展に必要な人財となり、将来、明るい豊かなまちへ向けた活動が期待できる。</p>					

	対内的	フェイスブックの閲覧数は昨年を大幅に上回る結果となった。 事業後のアンケートより、参加メンバーの全員が広報の必要性を理解し、今後の広報計画に役立つと回答があり、93%がフェイスブックの活用方法を理解し、87%がプレスリリースの重要性を感じたという結果となり、メンバーの広報力の向上に繋がった。
事業内容検証	運営上	準備段階でコンプライアンスチェックの為、当日使用する資料を急がせたため講師に不快な思いをさせた。
	予算上	各委員会に拡大の目標人数を設定したことで各委員会に対し、理事会に出席した委員長、拡大タイムに出席した副委員長を中心に、拡大と退会者抑制の意識が生まれ、組織全体で拡大をしていくという基盤づくりができた
	その他	なし
次年度への引継ぎ		①各委員会に純増目標値を設定したことは、ロムとして拡大、そして退会者の抑制となり、組織の拡大意識の向上にもつながった。下記の点に考量して、次年度以降も引き継いでほしい。 ア 委員会単位、もしくは業種や年齢などの拡大しやすい単位で目標設定をし、その中に責任者を配置する。 イ 委員長に限らず、理事長や副理事長などの単位に適した責任者を統括するリーダーを設定する。 ウ 目標値の設定は、過度なストレスや負担にならないように設定すること。特に退会はやむを得ない事情があるので、0という数値目標を掲げるのは難しいが、0名にしていく取り組みは継続してほしい。 ②各委員会に担当者を配置し、毎月委員会訪問を通して拡大情報を収集する計画を立てたが、4月以降から新規情報が無くなったことや、各委員会が忙しくなり始めた事により、訪問回数が減ってしまった。各委員会に拡大担当責任者を設置し、委員会内の拡大情報を集計、管理できるようになれば能動的で円滑な拡大活動につながっていく。 ③拡大対象者に対し、鳥取青年会議所活動をすべて話しながらクロージングを行ったので、後期新入会員の退会者はいなかった。焦らずに拡大対象者の環境や立場を考えた親切的なクロージングを続けてほしい ④入会者の多くが異業種交流会を通して入会しているので、有効なツールである。しかし、回数を重ねるにつれて参加者の動員に苦勞した。飽きさせない工夫、新たな第三者に向けた広報手段について考えてほしい。また、過度なJCのPRは、一般参加者を嫌な気分にするので、バランス感覚を大事にしてほしい。 ⑤拡大意識の向上と、将来に渡り、拡大していける組織づくりのため、異業種交流会内や二次会場でのクロージング時に若手メンバーを近くに座らせるなどして経験をつまらせてほしい。

委員会名	拡大広報推進委員会			委員長	大塩 晋也
事業名	TALKs×tottoriJC(トークスパイトトリ)				
実施日時	2018年11月1日(木)19:00～21:00				
会場	鳥取市民会館 大ホール(鳥取市掛出町12番地)				
参加人員	内部	88人	外部	244人	計 332人
動員計画検証	<p>チラシを市内の各所に配置、青年会議所メンバーにチラシと整理券の配布を依頼。業種交流会にて参加者へ整理券を配布した。整理券は600枚作成し、最終的に570枚を配布した。整理券を求める人数で、当日の参加者数を把握しようとしたが、無料整理券だったため参加意識が低く、一般参加者は244名にとどまった。無料で行うのなら、整理券の配布数を増やした方がよい。また、30枚程度の整理券が残ってしまったため、もっと長めの動員期間をとる必要があった。</p> <p><動員方法並びにWEB広告の実施と検証> 【リーチ数、アクセス数、申し込み数にて検証の結果報告をさせていただきます。 合計リーチ数(広告を見た人の数):17,812人 クリック数(興味を持った人の数):415人 申し込み数:38件(46人) 検証結果:鳥取青年会議所のHPの1回の投稿の平均リーチ数は約200件です。今回の広告は、17,812人の方にリーチすることが出来ました。その中で38件(46名)の方から申し込みを頂き動員につながりました。また、Googleフォームでの申し込みにしたためスムーズな受付につながりました。今後、広く一般市民に発信をしたい場合や、多くの動員を必要とする事業の場合、効果的な広報ツールだと思います。</p>				
事業目的検証	対外的	本事業をとおして、鳥取JCはまちづくりをする団体であることを来場者に知って頂くことができた。			

	対内的	1部の中江氏の講演から広報的視点を意識した伝え方を学ぶことで、広報力の向上につながった。
事業内容検証	運営上	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場のスペースが少なかったため、周辺駐車場を利用する参加者の遅刻が目立った。十分な駐車スペースのある会場が望ましい。 ・閉会后、アンケート記入を促すアナウンスをしたが、アンケート記入をせずに帰られた方が多かった。受付で資料を配布する際に、アンケート記入の協力をよびかけるべきだった。
	予算上	今回は講師の好意により謝金が必要なかったが、本来ならば予算内では開催することは難しい為、補助金の活用や有料チケットによる事業構築を検討する必要がある。
	その他	講師のスケジュールの都合上、世界大会の期間に事業を開催してしまい、迷惑をかけてしまいました。余裕を持った事業計画とスケジュール調整が必要です。
次年度への引継ぎ		<p>①会員のアンケートでは、講演会事業の開催を望む声が多かった。講演会事業は、会員の成長につながり、一般の方にも参加してもらえらることから、外部への発信につながります。他LOMでも、周年事業で著名人や有名人の講演会を開催されているロムも多いので、来年は60周年という節目の年であることから、広く一般市民に発信できる講演会事業の開催を検討してください。</p> <p>②当事業で講師をして頂いた中江氏は、鳥取の地域活性化に協力的です。今後も、鳥取青年会議所に協力して頂けると思いますので、ご要望があれば、大塩までご連絡ください。</p> <p>③FACEBOOK広告とインスタグラム広告は当事業で、46名の動員につながりました。広く一般市民に情報を拡散できるため、広報計画を立てるうえでご検討ください。</p> <p>④無料整理券は参加意識がさがり、配布数に対し実際の参加人数が減少する傾向がある。無料整理券で行うのなら、整理券の配布数を増やすことをご検討ください。</p>

委員会名	会員開発委員会		委員長	今井 清志
事業名	公益社団法人鳥取青年会議所 2018年度定例会			
実施日時	1月17日(水) 2月21日(水) 3月20日(火) 4月18日(水) 5月16日(水) 6月20日(水) 7月18日(水) 8月22日(水) 9月19日(水) 10月17日(水) 11月21日(水) 11月28日(水)			
会場	鳥取産業会館・鳥取商工会議所ビル、白兔会館、とりぎん文化会館第1会議室			
参加人員	内部	1月84.3% 2月85.2% 3月83.4% 4月86.9% 5月81.7% 6月83% 7月82.6% 8月79.3% 9月74.6% 10月81% 11月76.9% 12月82.6% 平均81.8%		
事業目的検証	対外的	なし		
	対内的	<p>全ての報告や委員会アワーを通し、想いや各委員会の動きを多くの方に知っていただくことが出来、情報共有の場として定例会を運営することができた。</p> <p>全体を通して出席率が低く「全会員の情報共有の場」として運営することが出来なかった。年当初、定例会の意義を委員会訪問で再認識してもらうことや、毎月の欠席者への本委員会からの連絡ができなかったことなど、当委員会が定例会設営や他事業に手をとられてしまい実施ができなかったことによる。また、2回連続欠席者への連絡は電話に出てくれない人が多く、出席を促すことが出来なかった。</p>		
事業内容検証	運営上	<p>事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2回続いた欠席者への連絡はスリープ会員が多く電話が繋がらないことが多かった。 ・定例会の準備で手一杯になってしまい定例会の意義を委員会訪問で伝えることが出来なかった。 <p>会場について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月～12月定例会は卒業生スピーチなどで時間がタイトになった。報告時間を短縮したり、卒業生スピーチの時間配分を検討する必要がある。 <p>定例会運営について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2018年度の前半は、シミュレーション不足を感じた。特に他LOMの方がこられる時は、誘導など細かい部分までシミュレーションをする必要がある。 ・委員会アワーを行ってもらったが、パソコンのトラブルが発生してしまった。委員会アワー自体の取り組みは各委員会に時間を多く割り振れるので必要だと思う。予備のパソコンなど、常に第二案を考えて準備設営したほうが良い。 ・文化会などは報告を行う方が、当日変更になることがあり、登壇のタイミングを勘違いしていることがあるので当日確認を行う必要がある。 ・配布資料は前日の17時までに専務チェックを受け、ルームのテーブルに置いておくがルールだが、守らない人もいる。配布してあげたい気持ちは分かるが、厳しい対応を取ることも必要である。 ・今年度は9月～11月定例会は18時開催でした。10名以上の遅刻者があり、出席率は確実に下がることが分かったので可能な限り18時開催は避けたほうが良いと感じます。 		

予算上	通帳に利息が付いてしまい、修正審議を上げることになった。決済用通帳を作成すること。
その他	なし
次年度への引継ぎ	出席率は年間平均が81%で高い数値を出すことが出来ませんでした。出席義務項目の定例会ですが、鳥取青年会議所メンバーに定例会へ参加することの意識改革を行うことが出来ませんでした。出席の依頼をする方法をもっと考え込み、各委員会と相談しながら、委員会と定例会の重要性を出席率の低い会員に伝えることが出来れば出席率の向上も達成できます。そして、設営を行う中で機材トラブルなど、さまざまなことが原因となり、厳粛な設営を行うことが出来ない定例会も何度かありました。もしもこんなことが起こったら。もしも、こんな症状が出たら。そんな、もしもを一つでも多く考えて設営に臨んでください。報告時間メモを昨年の引継ぎで活用したことで、時間が大幅に押してしまうことは、少なくなります。多くの方が決められた報告時間を守りその中で可能な限り工夫をして、報告を行っていただけるように設営してください。

委員会名	会員開発委員会		委員長	今井 清志	
事業名	公益社団法人鳥取青年会議所2018年度卒業式				
実施日時	2018年11月29日(木) 18:00~19:02				
会場	ホテルモナーク鳥取 2F 鳳翔の間				
参加人員	内部	89人	外部		計 89人
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	<p>・今年度は感謝状の読み合いを割愛したが、特別演出を加え成功したことで、在籍メンバーから感謝と敬意が伝わったとお声をいただくことが出来た。同時に、シミュレーションも現地で2回行い、当日不備の無い設営が出来た。</p> <p>在籍メンバーの言動や態度などを見ると卒業式、卒業式懇親会をなぜ行うか理解していない若手が多くいたことで、目的が達成できない点があった。今後は、なぜ卒業式や懇親会を行うのか伝えていく必要がある。寄せ書きを書いたが、読んでもらう時間が無かった。目的をさらに達成させようとするれば、卒業式後の待機してもらう時間を利用し読んでもらえたらと感じた。</p>			
事業内容検証	運営上	<p>・2018年度は、卒業式のシミュレーションを2回行わせていただきました。会場側からも徹底した取り組みに感謝されました。</p> <p>・22時撤収がモナークのルールとなっています。今まで時間が超過しトラブルになったこともありますので細心の注意が必要です。</p> <p>・司会を含めて、会に携わるメンバー(理事長、次年度理事長、直前理事長、エール依頼者等)、卒業生、会場との入念な打合せとリハーサルをお願いします。</p> <p>・今年度は、感謝状の読み上げを割愛させていただきましたが、もし読み上げる場合は理事長に早めに確認していただく必要があります。</p> <p>・感謝状の読み上げ割愛の変わりに、今年度は特別演出を加えさせていただきました。当日、声がかっきりと合い、卒業生からも好評の演出となりました。各委員会を訪問し、発声のタイミングをしっかりとレクチャーさせていただきました。次年度以降も、何か演出がある場合は、委員会訪問などでしっかりと練習を行ってください。</p> <p>・感謝状の割愛を行いました。聞き取りを行った結果は問題ありませんでした。ただし、他の人の感謝状も掲示するや、その後の打ち上げで読み上げるなど更なる工夫があると今年度以上に感謝と敬意が伝わると感じました。</p> <p>・打ち上げの時に感謝状を書いた人が読み上げたほうが感謝と敬意が伝わります。</p>			
	予算上	<p>・本年度も、登録料を公益社団法人の関係上、別会計で処理しました。会費ですべて賄うことが出来ましたが、例年7千円の会費を7千500円に上げさせていただきました(会場費が上がったため)。</p> <p>・柵(柵は浜崎酒販、加工はいろは堂)の用意など、我々から外部委託者に依頼する物品があります。運営頂くホテルモナーク様にご迷惑かけることがないように、速やかにデータを提出してください。</p>			
	その他	なし			
次年度への引継ぎ	感謝と敬意は当日の時間だけではなく、どれだけ目的を達成させる為に考え、準備したかが重要です。2019年度も卒業予定者は16名と多く工夫が必要な年になると思います。				

委員会名	会員開発委員会		委員長	今井 清志	
事業名	研修会員の研修会				
実施日時	前期:2018年1月入会～正会員承認まで／後期:2018年6月入会～正会員承認まで				
会場	鳥取産業会館他				
参加人員	前期	12人	後期	9人	
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	<p>今年度は「共にJC活動に取り組める人財の育成につなげる。」を事業目的に掲げ研修会を行いました。</p> <p>リーダーとしての資質向上は一回目と二回目の研修会で基礎や概要、具体的な手法を学んでいただきアンケートで理解できた。今後も活用していきたいとの言葉をいただきました。</p> <p>そして、第三回の研修会でまちづくりへの想いの醸成を行い、研修会後のアンケートでは、今後の因幡地域の活性化のために行っていきたい活動の案が多く出てきました。</p> <p>「リーダーとしての資質向上」と「まちづくりへの想いの醸成」が研修会員の皆様に植え付けることが出来たので事業目的に達したと感じました。</p> <p>アンケート集計の中で、まだやりたいことがわからないと答えられた方もおられました。読み解いていくと、仕事とJC活動のバランスを心配していることが分かりました。JCを通して先輩から学び、仕事とJC活動を両立していけば目的の達成に繋がると考えます。そのためには、正会員になったから終わりではなく今後も、各委員会が一体となりJC活動を続けていくことが必要と考えます。</p>			
事業内容検証	運営上	<p>前期の第一回研修会はシミュレーション不足で、当日多々不備があり厳粛な空気が演出できませんでした。これでいだろうという考えにならず徹底してイレギュラーが起きてても対応できるようシミュレーションを行う必要があると考えます。</p>			
	予算上	なし			
	その他	なし			
次年度への引継ぎ	<p>右も左も分からない研修会員にとって、研修会を設営する委員会はお手本となる必要があります。今年度はシミュレーションの不足や研修会当日の運営委員会の出席率の低さなど、研修会員にとって決してお手本となることが出来ませんでした。次年度以降は、研修会員のお手本となる、運営を心がけていただければと感じます。</p>				

委員会名	会員開発委員会		委員長	今井 清志	
事業名	3分間スピーチ				
実施日時	2018年1月～7月定例会時				
会場	定例会会場				
参加人員	内部	124人	外部	人	計 124人
事業目的検証	対外的	なし			
	対内的	<p>伝える能力の向上を図り、発表者の自信を醸成し青年経済人としてさらに活発に活動していただくための一助となるべく本年度は、練習スケジュールを配布し3分間スピーチを行いました。アンケートの結果から自信が付いたと、12名中7名と過半数に達しました。</p> <p>自信が付いていない人も、「良い経験になった」、「自分を見直すきっかけとなった」とポジティブな回答をいただきました。今回の反省を生かし、スピーチの場が来たとき練習を行い成功体験の積み重ねが更なる、自信の醸成に繋がると思われます。</p> <p>アンケートの結果から12名中5名の方は自信が付いていないと回答されています。仕事や委員会活動が多忙で練習時間が取れなかったと読み取れました。発表者本人だけではなく、運営委員会も予定通り運営をすることが出来ませんでした。</p> <p>運営委員会は、発表者をサポートしながら、本番を迎えられるよう、こまめに発表者と連絡を取り合う必要があります。</p> <p>今後は忙しい中でも、3分間スピーチに取り組めるよう発表者と運営委員会の意識を高める必要があると感じました。両者の意識向上が、目的の達成に繋がると考えます。</p>			

事業内容検証	運営上	<p>【事前準備】 予定していた発表者スケジュールをこなすことが出来ない方が数名おられました。会員開発としても、練習に参加する回数が少なく、管理をしていくことが出来ませんでした。 会員開発側の担当者と、所属委員会の委員長及び副委員長でスケジュールの管理を徹底することが必要と考えます。 同時に、発表者をフォローしていきたい気持ちを両委員会で醸成していく必要があると考えます。</p> <p>【本番】 貴重な定例会の時間を使い、3分間スピーチを行いました。途中で止まってしまい、最後まで発表が出来ない方がおられました。アンケートの結果を見ると、練習不足が原因と答えられていました。上記でも述べたようにスケジュールの管理と各委員会での練習が厳粛な定例会の場にふさわしいスピーチになるので次年度へ引継ぎます。</p> <p>【講評】 当日指名の講評でしたが、今年度は講評者発表前に、説明を行いました。その結果、しっかりと講評を行っていただけました。</p>
	予算上	なし
	その他	なし
次年度への引継ぎ		発表者の3分間スピーチへ向き合う気持ちが、本番の成功と、自信に繋がる事が分かりました。仕事やJC活動で忙しい中、行ってもらう3分間スピーチですが、運営委員会、所属委員会、発表者の3者で管理をしていく仕組みを作ることが大切であると感じました。

委員会名	社会参画委員会		委員長	宍道 真理子		
事業名	ぼくたちがつくる未来予想図～理想のまちを考えよう～					
実施日時	第1部(結団式・お泊り探検会) 2018年8月4日(土)9:30～8月5日(日)17:00 第2部(発表会) 2018年8月18日(土)10:00～11:45					
会場	<p>●第1部(結団式・お泊り探検会) 結団式:鳥取県民体育館第3研修室 探検先:鳥取市内各地域 宿泊先:鳥取市サイクリングターミナル砂丘の家 柳茶屋キャンプ場 鳥取砂丘こどもの国</p> <p>●第2部(発表会) 鳥取市役所本庁舎5階議場・とりぎん文化会館第2会議室(サテライト会場)</p>					
参加人員	内部	53人	外部	29人	計	82人
動員計画検証	<p>(参加者)チラシは一校一校手渡しで因幡地域の学校に配布し先生方への説明も行った。可能な学校では、給食時間や全校集会でのPRをさせていただいたため、募集締め切りより早く動員が埋まりました。城北ジュニアサポートクラブにはご協力いただいたためあらかじめ6人の動員が確定されていました。しかし、事業前に天候による社会体育などの試合の延期などにより、キャンセルが相次ぎました。キャンセル待ちの方と、呼びかけにより対応しましたが、目標に1人足りませんでした。チラシの確認ミスにより修正審議となりチラシの配布が遅れたため、チェックリストを作り確認を行いました。</p> <p>(鳥取青年会議所メンバー) 本年度は、定例会・電話連絡での呼びかけを行いました。探検会の前は一人ずつ電話したため多くのメンバーが集まったが、探検会と発表会の間にお盆を挟んでいたため、委員会訪問などを行うことが出来なかったため、日程調整と電話連絡が必要と感じました。</p>					
事業目的検証	対外的	<p>90%以上の参加者が自分たちのまちを良くしたいと思うようになり、まちの将来についても考えるようになったと考えており参加した子ども達の主権者意識は醸成されたと言える。 発表会で自分たちの考えた意見を聞いてもらったり、意見交換で子ども達の意見を真剣に対応して頂けたことで、子ども達はより未来に夢や希望がもてた。 全員が楽しかったと言ってくれた中で、まちに対する気持ちが以前と変わらない参加者と、よくしようと思わない参加者が一人ずついたので、2人には伝わっていなかった。</p>				

事業内容検証	対内的	今回に事業を通じて主権者としての役割や責任を感じてJC活動を行おうとしている人が24人いたが、元から意識している人も合わせると過半数以上が主権者意識をしっかりと持ち活動していると言える。 アンケートの回収率が悪く、回収した人の中でしか主権者意識の向上が読み取れなかった。参加していないメンバーには子ども達の成長を通して主権者意識の重要性を感じてもらえなかった。
	運営上	①動員の際、グーグルフォームによる動員打ち切り後に何人申し込みがあったかわからなかったため、キャンセルが出たときの対応が困難であった。 ②メンバーアンケートの回収率が低かったため、名前を入れるべきだった。 ③来賓の方の出席返事がなくても、突然来られる場合を想定していなかった。
	予算上	①チラシのミスがあったため、余分に印刷代がかかってしまった。 ②振り込み手数料を間違えていたため、振り込み手数料が予算に入っていなかった。 ③猛暑による熱中症対策のための瞬間保冷パックを予備費で購入した。 ④事業保険を見積もりのみで契約していなかった。
	その他	なし
次年度への引継ぎ		今年度、まちの問題点の改善策を考え、リアリティーある会場での発表を行ったことで、子ども達がまちのことを考える第一歩となりました。子どもの目線でまちの問題点や改善策の発表を聞き、周りの大人たちも子ども達の主権者意識の向上の重要性を再認識しました。今回は鳥取市のみでの探検であったため、今後は因幡地域での主権者意識の向上が必要と考えます。外部協力者である城北ジュニアサポートクラブ様からは他地域との意見交換などの提案もあり、今後更なる連携強化と協力が考えられます。 今回は改善策を考える事で終わったが、実現に向けた動きをすれば、「まちに対する気持ちが以前と変わらない」と回答した子ども達の意識も向上するのではないかと思います。 因幡地域の青少年の主権者意識の向上のためには、因幡地域全体で必要性について考え、大人たちが率先して環境づくりをしていく必要があると考えます。

委員会名	社会参画委員会		委員長	宍道 真理子	
事業名	若草学園施設交流事業				
実施日時	2018年3月2日(金) 10:00～12:30				
会場	若草学園・湖山西体育館				
参加人員	内部	81人	外部	100人	計 181人
動員計画検証	本年度は、定例会・委員会訪問・電話連絡での呼びかけを行いました。呼びかけの際は、「若草学園との絆」や「創始の志」といった、先輩方から受け継がれてきた熱い気持ちを伝える事に重点を置き、ただ参加するだけでなく、自分たちが学ばせてもらっているという気持ちで参加していただける様にしました。まず委員会訪問より前に全員に電話連絡をし、委員会訪問時におられなかったメンバーや欠席予定のメンバーには再度の電話連絡を繰り返しました。事前出席予定の87名より当日は6名少なく、平日事業であることからなかなか当日都合の合わないメンバーもいるため、前日にも電話連絡をするべきでした。メンバー動員目標の70%にはわずかに及ばず69.8%でしたが、当日は81名という多くのメンバーに参加していただきました。				
事業目的検証	対外的	今年の新設ブースとしてアスレチックコーナーを設けた所、トンネルと離れたくなくて泣く子もいるくらい楽しんで頂け、若草学園からは、学園で子供達にまた遊んでもらいたいからと言っていただけたい人気ブースとなりました。どのブースに対しても子供達、そして保護者の目線に立ち設営したことで、皆さんに楽しんで頂き笑顔溢れる会場となりました。本年度はプレゼントを皆同じにし、退場の際にメダルを渡すことで最後まで喜んで頂けました。また、若草学園、保護者の方の希望により、本年度は取材依頼を一切行わず、何も気にすることなく楽しんで頂けた。 どんぐり会の皆様とのアトラクションの際に、子ども達とメンバーの配置が半分に分かれてしまい子供たちとあまり触れ合えなかったのが、配慮が足らなかった。 入場・退場の際にしか音楽を流さなかったが、若草学園の先生が事業の最中に音楽を流してください、音楽を流すことも子供達の気持ちを楽しくさせる一つと感じた。			

	対内的	事前の委員会訪問や電話確認の際、「若草学園との歴史」や「創始の志」についての説明に重きを置き、若草学園との絆を周知していただいたことで当日多くのメンバーに参加してもらうことができ、ただ子供達と遊ぶだけでなく、気付きや学びを得ていただけた。 参加していないメンバーには、交流の中から「創始の志」や「若草学園との絆」を感じていただくことができなかった。
事業内容検証	運営上	なし
	予算上	なし
	その他	なし
次年度への引継ぎ		今年度は、参加者の目線になって考える事、メンバーに対しては、「若草学園との絆」・「創始の志」を感じていただくことに重きを置き事業を構築し設営して参りました。子供達に楽しんでもらえる工夫や委員会訪問の練習をし思いを伝える事に、委員会メンバーが一致団結し取り組めたことが良い結果になったのだと思います。参加者に対しても、メンバーに対しても思いを伝える事が一番と考えます。 鳥取大学のどんぐり会の皆様には、毎年良きパートナーとして御協力頂いております。予定者段階の11月中頃には打ち合わせを行い、密な連携をとっていただくことが強固な連携となり事業成功へ繋がると考えます。

委員会名	国際交流委員会		委員長	原田 直樹	
事業名	ワールドアドベンチャー！～みんなでミッション達成しよう！～				
実施日時	①ワールドアドベンチャー！～みんなでミッション達成しよう！～ 2018年10月14日(日)(湖山池青島公園)9:30～13:30 ②事業報告会 2018年10月22日(月)(鳥取市文化センター大会議室)19:00～20:30				
会場	①ワールドアドベンチャー！～みんなでミッション達成しよう！～ 湖山池青島公園(鳥取市高住) ② 事業報告会 鳥取市文化センター(鳥取市吉方温泉3丁目701)				
参加人員 10/14	内部	70人	外部	126人	計 196人
参加人員 10/22	内部	55人	外部	人	計 55人
動員計画検証	<p>①7月29日(中止) (参加者)鳥取県東部全小学校(1～4年生)に教育委員会に依頼し配布を行った。また、フリーペーパー製作者より無料掲載の依頼があり、活用させて頂いた。そこで事業内容に興味を持ってもらい、夏休み時期と重なったこともあり募集人数に早期に達したため募集締切日前に募集を打ち切った。しかし、他の行事が入ったとのことで直近にキャンセルがあり3名足りなかった。子供たちに国際的な交流を感じさせたい親御さんが多いということが今回の動員の多さにつながっている感じた。 募集を打ち切らず、キャンセル待ちができるような工夫が必要だった。そのためには、早く動員をかけ締め切りから事業日までの期間をとれるようにしキャンセルに対応することが必要。 10月14日 (参加者)当初参加予定者に参加の確認を行ったが、24名のキャンセルが出てしまった。委員会メンバーで再度動員を試みたが、最終で8名足りなかった。 再度フリーペーパー掲載して頂くなどの工夫が必要だった。 (メンバー)事業開催にあたりメンバー一人ひとりに役割を与えることにより参画意識を向上させるとともに、委員会内で担当を振り分け電話にて確認作業を行ったため、多くのメンバーに参加して頂けた。</p> <p>②10月22日 (メンバー)事業参加者が多かった為か、翌週の報告会はメンバー参加者が少なかった。 スケジュールがタイトだったので、今後は他のJC活動と重ならない日程を実施日として考慮する必要がある。</p>				

事業目的検証	対外的	<p>在住外国人の認知と対象者に対して各国の遊びを通して国際交流を行えた。(保護者、子供対象のアンケートの結果により、9割以上の方が楽しめたという結果を得た。) 機会の提供することで、子供たちに対して外国文化に興味をもって頂けたと考える。今回の事業をキッカケに、親が子供をもっと国際交流させようと考えて頂けたので、意識の向上に繋がった。</p> <p>外部協力者と参加者との触れ合いがアトラクションに偏っていた。それ以外でも外部協力者と参加者との触れ合いの場が必要であった。昼食タイムの時などを活用し、外部協力者と参加者が触れ合えるような設えが必要であった。</p> <p>子供たちには難しいアトラクションの内容であったと外国人アンケートにあったので、参加者の年齢に合ったアトラクションの設定を事前に外部協力者と綿密に打ち合わせするべきであった。</p>
	対内的	<p>今までになかった国際交流の事業により、必要性を感じて意識の向上に繋がった。(親近感が湧いたといったアンケートや、相互理解が国際的意識の向上につながるといった肯定的なアンケートが9割を占めた。)</p> <p>国際交流の意識の向上には繋がったが、因幡市民の牽引者として今後も継続的に多様な価値観に触れることが必要です。</p>
事業内容検証	運営上	<p>①外部協力者(外国人)は協力の確約がなかなか取れず確定がぎりぎりとなってしまった。</p> <p>②事業日にメンバーからアンケートの回収ができず、後日行ったが回収率が低かった。</p> <p>③ゲームのシミュレーションが不足していた箇所があり、年齢によっては難しい箇所があった。</p> <p>④外部協力者とのコミュニケーションを密にとる。</p> <p>⑤屋外、屋内問わず、異常気象を考慮し参加者に連絡する基準を設ける。</p>
	予算上	<p>①振込手数料に差異が出てしまった。金額の確認不足や振込口座の変更など事前に確認することで防げるミスでした。委員会内で確認する時間を設けることが必要でした。</p> <p>②外部協力者が1名キャンセルとなった。その際の代役を決めておくことが必要でした。</p> <p>③トライアルで見積もりを取っていたが、金額に変動があり差異が出てしまった。</p> <p>④延期を想定していなかったため、弁当代、保険料に追加が出た。</p>
	その他	
次年度への引継ぎ		<p>今年度は、当初の聞き取りの結果で見えてきた問題点から、初めの一步として順応性のある小学校1～4年生を対象として因幡市民の、多文化の理解に向けた意識の向上を目指すことを目的とし、知る機会を作る事業を行いました。参加者に対しては、目的は達成したと思いますが、極一部の因幡市民にしか機会が作れていません。</p> <p>次年度以降、きっかけ作りの継続と共に事業の対象者を増やすなど、異文化の認識、理解を深めていく必要があります。継続的に事業を行うことで多くの因幡市民に機会を作り、多文化共生に近づくと考えます。</p>

委員会名	地域コミュニティ推進委員会			委員長	木下 国広	
事業名	つながろう子育ての輪 ～未来へテイクオフ～					
実施日時	平成30年8月19日(日) 育児の日 10:00～15:00 事業日 平成30年8月27日(月) 19:00～21:00 意見交換会 平成30年10月10日(水) 13:30～14:30 提言書提出・意見交換会					
会場	学校法人鶏鳴学園 青翔開智中学校・高等学校・鳥取県庁第6会議室					
参加人員	内部	74人	外部	300人	計	374人
動員計画検証	アンケートを参加者全員に取れていなかった不手際があったが、今回の動員に関しては、各保育園、幼稚園へのチラシ配布で来場された家庭が多かった事が窺える。また、行政や外部協力団体からも当日に向けて動員に多大なる協力を頂けた。また、当日は鳥取市ブースだけでも189名の訪問者もあり、JC、協力団体も合わせると300名を超える事業実施となりました。					

事業目的検証	対外的	子育てに関する地域コミュニティの支援団体と行政を巻き込み、連携と相互理解を深めることができ、今後の子育てに関するコミュニティの拡大と活性化に繋げることが出来ました。
	対内的	行政に提出した提言書を定例会でメンバーに配布し、子育て環境の整備や団体・行政の連携や重要性は多くのメンバーに認識してもらった事が出来ました。 メンバーが参画し、直接団体や参加者と関わる機会が少なかったり、報告等を行う機会があれば地域コミュニティの重要性の部分までしっかりと伝えられたのではないかと考えます。
事業内容検証	運営上	① 事業前に参加団体間の交流や各ブースの情報交換が必要だった。事前の交流があれば事業当日により深くお互いを知ることが出来た。 ② 午前中にJCメンバーに多く参加してもらったが、午後から急激に人数が減ってしまった。運営面では各委員会、メンバーが均等に振り分けれる様に役割分担をしっかりとすべきでした。 ③ アンケート回収の始まりが遅れ、来場者、JCメンバー向け共にかなり未回収部分が多かった。
	予算上	なし
	その他	なし
次年度への引継ぎ		本年度事業を開催し、意見交換会と提言書を提出したことで、子育て環境の整備とそれに関わるコミュニティが活性化、拡大し確かな運動に繋がっていくものと考えます。本年度をスタートとし、来年度は行政と団体が連携の重要性も認識した中で、共に積極的な連携を図ろうとしており、意見交換会や協同イベント実施の意欲も高まっていることも窺えます。ですが、日本一すみよいまちの実現には、幅広い世代が関わる事や企業の参画というものが必要となっています。地域コミュニティの問題は環境の整備も解決方法となりますが、やはり地域の外部協力者や団体・企業も巻き込み、メンバーの参画の部分にもしっかりと目を向けた事業構築をする事で更なる地域コミュニティの形成と活性化に繋がるものと考えます。

委員会名	因幡の魅力発信委員会		委員長	田村 拓也	
事業名	かまってとっとりインスタフォトコンテスト～鳥取って砂丘だけじゃないのよ～				
実施日時	期間 2018年8月10日(金)～2018年10月14日(日) ・1次審査会 2018年10月18日(木)～2018年10月24日(水) ・最終審査 2018年10月26日(金)～2018年11月2日(金) ・企業協賛賞審査 2018年10月18日(木)～2018年11月2日(金) ・発表 2018年11月6日(火) 公式ホームページにて発表				
会場	かまってとっとりインスタフォトコンテスト (因幡地域で撮った写真の投稿)				
参加人員(里山)	内部	人	外部	1489	計 1489人
動員計画検証	チラシ配り・団扇配りにより事業の周知とHPへの誘導を図りました。 HPや投稿の仕方動画により参加の推進を行いました。 定例会にて事業の開始の報告、途中経過、最終結果を報告しました。 委員会訪問にて事業の目的、インスタグラムアプリの開設の仕方を伝えさせて頂きました。				
事業目的検証	対外的	因幡に興味を持ってもらう・知ってもらう事が出来ました。 (数値目標・因幡の人口227, 201人分への発信<結果・1, 861, 139人分)*投稿の全フォローの合算。			
	対内的	多くのメンバーに因幡の魅力を感じて頂けました。 メンバーに写真は見て頂けたが、投稿は少なかったので、メンバーももっと関わる機会をつくる工夫も必要だと感じました。			

<p>事業内容検証</p> <p>運営上</p>	<p>① 1市4町のイベント時の団扇配布にて台風で中止になってしまったイベントがあった。</p> <p>② アンケートをインスタアカウントからメッセージで送る際に200通程を送るとメッセージ機能が凍結してしまった。アカウントからのメッセージでアンケートを取る場合、スケジュール感・ターゲットを検討したうえで行わなければならないと感じた。</p>
<p>予算上</p>	<p>なし</p>
<p>その他</p>	<p>① 因幡以外の写真の投稿も目立った。特に鬼太郎ロード、大山寺の和傘ライトアップなど鳥取県西部のインスタ映えスポットが多く感じた。参加者の半数以上が県外だと 対象:因幡地域 といっても認知されていないと、ここでも認知度不足を感じた。</p> <p>② 動画に関しては、閲覧数が伸び悩んでしまった。</p> <p>③ 1年目の事業で新しいアカウントを使い、フォロワーも0人スタートだと出足に苦戦した。継続する場合、今のアカウントも早めに稼働させとく必要があると感じる。</p>
<p>次年度への引継ぎ</p>	<p>多くの方に参加者として投稿して頂き広く因幡の魅力の発信に関わって頂きました。本年度、「環光のまち因幡」推進運動を集大成として、関心人口をターゲットに、まずは知ってもらい「かまってとっとり」に変化させました。人・モノ・お金が集まるまちを継続して目指すためにも、因幡地域の認知度不足という課題の解決のために、市民の先頭に立ってリーダーシップを発揮しながら因幡の魅力と向き合うアクションを推し進めることが必要だと考えます。</p>